



第48回 十果会

本館6階 美術画廊【洋画】

十果会は1979年、独立美術協会の有志11名により、「集団には勉強会の性格を持たせ、展覧のときには力作を発表しようではないか」という理念のもと結成。現在も、創設会員である奥谷博氏をはじめとする先生方が、時代の変遷に流されることなく、日本独自の油画表現を追求し続けている。「美とは何か」という答えの無い問いに対して、揺るぎない信念と自由な創造精神をもって、11名の先生方による大胆で力強い意欲作の数々を展覧。

【ギャラリートーク】7月4日(土)午後3時から

【出品作家】(敬称略・50音順)

相田幸男／井澤幸三／今井信吾／
大津英敏／奥谷太一／奥谷博／
木津文哉／齋藤将／瀬川富紀男／
瀬島匠／平岡靖弘

7.1 WED～7.6 MON



齋藤将
「せかいのおわり、ぼくらははじまり。」
H160×W194cm

川又 聡 日本画展
—breathe—

本館6階 美術画廊【日本画】

1978年神奈川県生まれ、2010年東京藝術大学大学院美術研究科博士後期課程美術専攻日本画研究領域修了(学位取得)。伝統的な墨彩技法から生まれる躍動感と生命力溢れる動物たちを描くことで国内でも注目度の高い日本画家として脚光を浴びる。個展の他、最近では、大作発表を主とするグループ展「FROM」に参加するなど精力的に発表を続ける。今展では、「breathe」と題し、生命の息遣いに焦点をあてた動植物達の様々な物語を表現された作品約25点を展覧。

7.8 WED～7.13 MON



「白虎」
H53×W40.9cm
紙本彩色

再生 一京が紡ぐものがたり

本館6階 美術画廊X【総合】

「しまつの文化」に代表される、古いものを大切にしながら世代を超えて使い続けるという習慣や文化が根付いている京都。

その京都ならではの美意識のひとつともいえる「再生」という概念をキーワードに、京都にゆかりのある現代作家にご出品いただくグループ展。

本展を通じ、伝統と暮らしの中で循環型社会を構築しながら、多くの優秀な作家を育み、輩出してきた京都という土地の魅力や文化を発信。

【出品作家】(敬称略・50音順)

浅倉由輝／近藤高弘／酒井稚恵／佐々木萌水／嶋春香／副産物産店／
福本潮子／ミヤケマイ

6.24 WED～7.13 MON

高島屋のサステナブル・アクション
TSUNAGU ACTION

佐々木萌水
「高瀬川 よろけ環珞紋湯呑」
H4.2×W7cm
漆、高瀬川の磁器片、錫、砥の粉、フェルト
2025年



メッセンジャー

天野 裕夫 彫刻展

本館6階 美術画廊【彫刻】

1954年岐阜県瑞浪市に生まれ、1978年多摩美術大学彫刻科を修了し、個展活動や野外彫刻展などに精力的に出品され、数々の賞を受賞。

今展では、「メッセンジャー」と題し、御神木との融合された動物作品を中心に陶・石・ブロンズ・化石など様々な組み合わせによるユニークな発想から生まれる不思議な生き物達、天野ワールドの作品を一堂に展覧。

7.8 WED～7.13 MON



「メッセンジャー」
H110×W110×D77cm
御神木、ブロンズ

本館6階 美術工芸サロン【ガラス】

佐々木 伸佳 硝子展

1980年岩手県生まれ。現在は静岡県伊豆市の工房を拠点に、「レースガラス技法」などヴェネツィアの伝統的技法を用いて制作。ガラスに浮かび上がる緻密な紋様や線の美しさが魅力。今展では花器やオブジェ、茶道具など新作を発表。

7.1 WED～7.6 MON



「花の器」
H24×W31×D13cm

本館6階 美術工芸サロン【陶芸】

デレック・ラーセン 展

1975年アメリカのカンザス州に生まれ、学生の頃から陶芸を学び、日本のやきものに心ひかれたデレック・ラーセン氏。2008年来日し、各地の窯をめぐり、2012年に京都府京北町、2026年に美山町に穴窯を築く。その作品は伊賀や信楽といった焼き締めのやきものであり、その古格で野趣に富んだ作風は多くの人を魅了している。

7.8 WED～7.13 MON



「Tamago」
H21×W19cm
炆器、信楽土、穴窯焼成
2026年

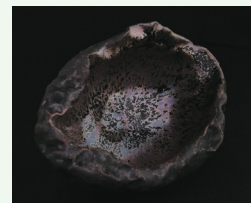
本館6階 美術工芸サロン【陶芸】

古谷 宣幸 展 一天目の続き—

1984年に古谷道生氏の三男として滋賀県信楽町に生まれ、現在も同地で作陶。

釉薬や形状に制約の多い天目の世界において、その枠を押し広げるべく独自の表現を追求。今展では油滴、灰被、黄天目の茶盤や、天目釉を用いた花入や壺、酒器等を展覧。これまで研究してこられた穴窯焼成ならではの天目の景色に注目。

7.15 WED～7.20 MON



「桃銀油滴煤黒茶盤」
H9.5×W18.2×D13cm

中北 紘子 個展
Rinne

兵庫県生まれ。2006年東京藝術大学大学院美術研究科絵画科油画専攻博士課程修了。神戸と米国カリフォルニアのアトリエを拠点に制作を続け、国内外で発表。企業とのコラボアートや、コミッションワーク等制作活動中。

7.15 WED~7.20 MON

「kaze-wataru」
H41×W32×D1.8cm
油彩、アクリル、キャンパス



志鎌 猛 展
不易流行 Shape of Water

写真家志鎌猛氏は2008年より、デジタル全盛の現代とは対極にある、プラチナ・パラジウム・プリントに取り組んでいる。19世紀後半にイギリスで発明されたこの古典的写真技法と、日本の伝統的な手漉き和紙・雁皮紙を用いて自作した印画紙を使うことによって、微妙な階調の繊細で美しいモノクローム作品を生み出している。今展では『不易流行 Shape of Water』と題し、変わらないものと、変わり続けるもの。を水を主なモチーフに表現。

7.15 WED~8.3 MON

「Lotus #23」
イメージサイズ: H19×W19cm
プラチナ・パラジウム・プリント、雁皮紙
2015年



藤井 慎介 展

1968年静岡県生まれ、1991年武蔵野美術大学造形学部建築学科卒業。2000年静岡県裾野市に工房を構える。藤井氏は、日々の生活の中で喜びを感じられるような、木ならではの温もりのある造形と質感の作品を制作。椅子やテーブルなどの家具から、お盆や椀、厨子など多岐にわたる作品を展覧。

7.22 WED~7.27 MON

(左)「櫛サイドテーブル」
H63×W45×D45cm
櫛

(右)「櫛ロッキングチェア」
H94×W67×D86cm
櫛



多田 えり佳 展
玉響の種

海外や東京藝術大学、富山ガラス造形研究所などで学んだ後、本格的に作家活動を開始。作品ごとの表現したい質感や空気感に合わせ、吹きガラスやキルンワークなど多彩な技法を駆使する多田氏。今展では“たんぽぽの綿毛”をモチーフとしたオブジェ作品を展覧。儚さの中にある確かな生命力、見えない時間の流れを表現。パート・ド・ヴェール技法による日常使いのうつわ等も併せて一堂に発表。

7.22 WED~7.27 MON

「風に吹かれて」
H8×W7×D7cm



		7月																														
		1 水	2 木	3 金	4 土	5 日	6 月	7 火	8 水	9 木	10 金	11 土	12 日	13 月	14 火	15 水	16 木	17 金	18 土	19 日	20 月	21 火	22 水	23 木	24 金	25 土	26 日	27 月	28 火	29 水	30 木	31 金
本館 6階	美術画廊	十果会						準備会場	川又 聡 展					準備会場	中北 紘子 展					準備会場	今日のジェスチュアル					準備会場	服部しほり展 ※8月3日(月)まで					
									天野 裕夫 展					準備会場	辻村 塊 展					準備会場	藤井 慎介 展					準備会場	山中 辰次 展 ※8月3日(月)まで					
	美術画廊X	再生 一京が紡ぐものがたり													準備会場	志鎌 猛 展 ※8月3日(月)まで																
	美術工芸サロン	佐々木 伸佳 展						準備会場	デレック・ラーセン 展					準備会場	古谷 宣幸 展					準備会場	多田 えり佳 展					準備会場	市岡 真治 展 ※8月3日(月)まで					
2本館 階	アート アベニュー	増田 寿志 展 ※8月24日(月)まで ※8月19日(水)は休業日																														

日本橋高島屋S.C.は、8月19日(水)は休業とさせていただきます。
※東館ポケモンセンターウキョーDX&ポケモンカフェのみ営業いたします。 ※お車でご来店の際は、東館または提携駐車場をご利用ください。

誠に勝手ながら都合により催内容、会期など一部変更または中止となる場合がございます。営業日・営業時間、催内容、会期の最新の情報は高島屋ホームページをご覧ください。



高島屋各店美術画廊・展覧会のご案内はホームページでもご覧いただけます。



高島屋 美術

検索